

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0692400021		
法人名	株式会社ジェイバック		
事業所名	グループホームもも太郎さん(大石田)		
所在地	山形県北村山郡大石田町桂木町2-3		
自己評価作成日	平成25年10月2日	開設年月日	平成20年7月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 25年 10月 29日	評価結果決定日	平成 25年 11月 18日

(ユニット名 かつら)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所より五年を超えて、入居者様により一層丁寧な支援を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな街の中で、春早く芽吹きを見せた街路樹も今は紅葉に染まり、窓越しに秋の深さを感じながら習字を書いたりして思い思いにくつろぎ、ゆったりとした生活を送っています。夫婦や家族との暮らしにも対応し、「笑顔で穏やかに普通の生活ができること」が利用者の願いでもあり、事業所全体の願いとして日々支援をしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部		項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	25年度に於いては理念・スローガは、唱えるものではなく身体で覚えるものと意識統一し実践につなげている。	理念と併せ、接遇スローガン「尊重します」「連携します」「向上心を持ちます」の下に毎日その日の目標を掲げ、利用者との接し方などについて夕方のミーティングで評価し、日常の関わり方が無意識の中で行えるように鋭意努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今後とも入居者様が地域住民であり続ける為に地域に根差したグループホームを目指し積極的に地域に溶け込んでいけるよう努めている。	通勤時や外出時にさりげなく交わすあいさつや言葉を大切にしている。町内で行われるビアガーデンには敷地を提供し、町内の一員として参加しながら若い夫婦や子供たちとのふれあいを楽しみ、また近所の方の協力でたくさんの野菜も栽培し活用している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設二年目で「認知症サポーター養成講座」を自施設にて開催し職員全員が認知症サポーターとなり、五年目にして認知症専門施設として地域に認知症についての啓発を発信していかなければならないと意を新たにしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での意見は確実にサービスや運営に活かさせていただいている。	家族代表や区長・町担当者・地域包括支援センター・警察官などが出席し、定期的に開催している。活動状況報告や情報交換が行われ、警察から地域の出来事や日常の注意事項などを聞き、防犯防災に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域密着型サービスであるがゆえに、町からの協力等、開設当初から変わらぬ支援をいただいている。	日頃から情報交換や相談など双方向的関係を築いている。役場の窓口に広報紙の常置を依頼し、地域への広報にも協力を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	当たり前身体拘束を行わないように生活をしている。	研修を通じて認識を図り拘束のないケアを行っている、外に出たがる人には見守りを強化しながら周辺地域にも事前に依頼し、関わりを大切に自由な暮らしを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	あつてはならない行為であることをホーム全体で意識しておりまた実行している。虐待について職員会議にて知識を深める勉強会も実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身近に権利擁護の専門家がおり本社レベルでの公演も実施している。事業所内に於いても外部講師を招いて勉強している。現在、福祉サービス援助事業の利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は入所時に締結。 解約(退所)については重要事項説明書に記載しており、特に書類化はしていない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では家族代表の方に出席いただいている。また年一回、家族の会を呼び掛け意見、要望をいただいたり、また、玄関先には意見箱を設けている。	いも煮会と併せて「家族の会」を開き、日頃の生活ぶりを見てもらい、要望を伺うなど意見交換を行っている。関わりの中で得たことはノートに記載して申し送り、ミーティングなどで統一した対応を図り、業務に反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者のみに限らず各事業所の職員が本社で意見を提案出来る環境にある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	24年度迄に多くの改善がなされたが、今後も職場環境・条件の整備に努めていきたい。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回事業所内にて研修を実施している。課題については当月担当者が考え発表に至っている。また、年二回の研修を法人の取り決めとされている為、内部研修に限らず社外研修にも可能な限り参加している。	毎月各職員が輪番で講師を務め、研修を行っている。外部研修にも積極的に参加し、伝達研修等で全体のスキルアップを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県グループホーム連絡協議会に参加し研修や交換実習など積極的に参加し質の向上に努めている。	他の事業所職員との情報交換を通じて、参考になることは大いに取り入れるようにしている。地域によって多少の差は感じているが質の向上に励み、休憩時間の取り方など処遇改善も行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを基にまずは本人の話を充分に聞くことから。把握困難な入居者については関わりを多く持ち関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時のご家族の不安を出来るだけ取り除けるよう、こまめに連絡・報告・相談をする。話す事により関係性が築かれる様に思っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集、アセスメントに重点をおき個々にあったサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設理念に『共に生きる』をきっかけ、理念にもとづく支援を心がけている。尊厳を大切に寄り添いながら信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会社の理念である「家族の絆」を常に念頭におき共に入居者をささえていく関係を築いていくために相談、報告をしている。特に入居者の体調不良の時には、こまめに状態を報告し、家族と相談しながら対応している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで利用していた馴染みの床屋さん、商店の利用、また地域の方々の助けを借りながら、友人宅へお茶飲みに出かけるなど、これまで築き上げてきた関係が途切れないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性の良し悪しに気配り、穏やかに過ごせる様な配慮を怠らないように努めている。また、介護度の違いにも配慮しながら、職員が間に入ってお互いの思いを尊重しながら生活出来るように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話やハガキで当所の行事にお誘いしたり、入居者と一緒に顔見に行ったりして関係を継続させる取り組みを行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々のニーズを支援に反映することに努め、困難な場合は、生活歴や家族の意向を反映して支援に努めている。	思いの表出が少なくなっていく中で、そっと傍に寄り添い関わることで生活歴などのなごりを大切に、日々の生活をとおしてそれぞれの意向を把握し、支援目標としてプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の面会時に話を伺ったり、本人と会話を重ねていくことにより把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はその人の暮らしの現状を把握する為に一方的にならないよう一緒に過ごしながらかつ多くを語り合い支えあう関係を築いている。また、些細な変化にも気がつけるように日々の観察・職員間での情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心にケースカンファレンスを継続的、かつ内容のあるものに介護計画に反映できるように努めている。	利用者や家族の思い・情報などと併せて申し送りノートやケア記録なども勘案し、プランをたてている。関わりの中から得た利用者の思いや家族の意向を大切に、残存機能を生かして行けるように作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的(週2回)にミーティング時に出し合った意見や気づきを記録し、入居者へのより良い支援へとつなげている。また、職員ノートを活用し周知徹底を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族や病院、または担当ケアマネからの情報に加え、本人の友人や担当民生委員、近所の方の力も借りて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意向を大切に、家族が受診同行する際には状況などを伝え、職員同行の際には診断結果などを報告し、全ての受診は記録に残している。本人の状況に合せ24H対応可能な医療機関の利用も選択肢があり、安心していただいている。	かかりつけ医受診は、家族等付き添いで、また24時間対応可能な往診専門医の診察を受ける事も出来る。症状や薬を把握して医師に伝え、結果や指示は受診記録で共有し、家族等には電話で知らせている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の日々の小さな変化から異変への気づきを確実にキャッチし、医療機関へ報告・連絡・相談し適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時は必ず職員も対応し、入院中の病院訪問(医療連携室や病棟)をし、退院時も病院側・ご家族との連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについての具体的なケースはまだないが、先を見据えてご家族様と話し合い意向を聞きながら、24H対応可能な医療機関の利用を行うなどし早い段階から取り組んでいる。今後はさらに具体的な指針づくり、特に医療機関との連携をとりながら職員体制(研修含む)も充実していきたい。	医療が必要になってきた時には家族等と話し合いを持ち、医師との連携を保ちながら希望に沿った終末期を迎えられるようにしている。職員は安心感を持って介護出来るような体制作りをして、ターミナルケアについて研鑽を積んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルをつくり備えている。また消防署主催の応急手当や心肺蘇生法の講習会に参加し職員のスキルアップをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いの避難訓練に年2回の自主防災訓練を実施。火災、水害、地震など様々な災害を想定し、柔軟に対応できるようにしている。さらに、災害マニュアルを作成し、職員に周知徹底を行う。	様々な場面を想定した訓練を行い、実際に火災通報専用電話を使い通報も体験している。声が小さいという講評を受け、その後は大きな声を出して安全に避難が出来るよう誘導している。倉庫を作り有事に備え備蓄もしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令的や否定的な言葉掛け等をする事なく、個人の人格を尊重し、地域性や生活層などにも合わせた言葉遣いや対応をしている。	利用者への声がけや親しく会話をする事で一人ひとりを深く知り、プライドを傷つける事がないよう気をつけて対応している。記録簿等も事務所のキャビネットで保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を心掛け、また言語による意思疎通が困難な場合は行動や表情等を観察し、自己決定が出来るよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何をするにも入居者個々を主張を尊重し決して強制しないことを心がけ接している。友達の家へお茶のみに出かけたりするなど本人の主張を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの個性を尊重し化粧や服装など自由にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	郷土食豊かな土地柄であり、その節にだけ食べられる独特な食材や食品を地域の方々に一年を通して好意を戴いている。また野山で採取した食物などの調理方法や、味付けなど 知恵をお借りしている。	一週間分の献立を職員持ち回りで作り、一日おきの買い出しと地域の好意の差し入れを使い調理している。加齢もあり手伝いもままならなくなっているが知恵を借りたりしながら食事を作り、職員も共に食卓を囲み楽しい時間を過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量・食事形態を提供。飲みたい時には、何時でも飲んでいただける体制を整えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員見守り又は介助の中、毎食後の口腔ケアを実施している。また、義歯使用の場合は毎晩除菌を実施し清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握することに努め、トイレ誘導を実施している。予防としてリハビリパンツ等使用していても基本はトイレでの排泄としている。	パターン表を使った誘導をしながら排泄介助をしている。各室にトイレが付いており「トイレ」の貼り紙や照明をつけておくなどわかりやすくし、使用後の見回りをするなど清潔を保っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の適度の運動や、繊維質の食材などを取り入れた食事の提供、水分摂取を促すなど便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は毎日、入浴出来ることを法人運営規則に定め、希望があれば毎日入浴出来る体制をとり、主治医との相談の上、体調と希望に沿った入浴をしている。また、入りたくない入居者への入浴を、いかにしてスムーズに出来るかを課題に職員全員取り組んでいる。	一人ひとり湯を変え、褥瘡や痣などがないかを見ながら、また一人で入る方には5分ごとに声をかけるなど、利用者に合った入浴介助をしている。拒む人には、どのような声がけがいいのか、雰囲気作りなど多方面から考えて、入浴を促すよう職員も努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、居室の消灯時間は定めておらず個々の希望に沿って就寝していただいている。その日の体調にあわせ、いつでもどこでも休息していただける様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局や医療機関の管理のもと、適確に服用していただいている。また症状の変化があった場合は速やかに相談又は受診につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴などにあわせて施設内の花壇や畑で草花や野菜の世話や収穫、調理の下準備など出来る範囲でお手伝いをさせていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望には偏りがあり、個人の意思を尊重しながら、極力希望に添った外出支援を心がけている。	2～3人単位で買い物やドライブなど利用者の要望に出来るだけ沿った外出支援を行っている。時にはボランティアの腹話術を楽しみ、また、毎月の“アンリの日”を心待ちにして、愛犬アンリが来るのを首を長くして待っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を所持(管理)している入居者もあり、職員と買い物に出かけたときなど自分で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいときには、職員のサポートのもと自由に電話を掛けている。また、手紙や葉書きを書いて出している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の敷地内にある畑を整備し、四季折々の野菜を採取・食卓に並ぶことでも季節感を感じていただいている。各居室より眺める風景は季節を感じることができ、癒されている。また、各居室の温度湿度を計測(三回/日)し、快適に過ごしていただけるよう努力している。	利用者の対人関係や食席に気を配りながら、窓から見える敷地内の畑を整備し、野菜の育つ様子から季節を感じてもらうなど、穏やかに暮らせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった人たちで話し合いの場が持てるよう、リビングにはテーブルやソファを何箇所かに配置し、思い思いの場で過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に持ち物は自由にしており、使い慣れた物、見慣れたものは極力持ち込んでもらえるようお願いもしている。	入り口には花の写真を飾り目印にして、利用者それぞれの生活スタイルに合わせたふさわしい居室を提供できるように考えている。トイレ、洗面台、クローゼット等を配置し、コールベルを備え、部屋とトイレは職員が毎日清掃している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内トイレなど分かりにくい入居者さんにはプレートを付けたり、はりがみをしたり分かりやすいように工夫している		